



がん医療相談だより

No.59 平成29年3月号



今月のおはなし

息をのむほどに高精細な内視鏡手術ロボット 中国四国地区で初めて2台態勢へ

腎泌尿器科 教授 松原昭郎



手術ロボットとは執刀医の手先の動きを4本のロボットアームを介して忠実に再現する装置のことです。カメラ、メス、鉗子（モノをつかんだり牽引したりする器具）をアームに取り付け、お腹に開けた直径数mmの穴から体内に入れて執刀医が離れた場所から操作します。カメラを通して見る鮮明な立体画像は、まるでお腹に直接、目を入れてのぞき込んでいるかのようにリアルで、ハサミや鉗子は指先の操作で自由に曲げることができるため、まるで自分の両手をお腹に入れて操作しているかのような感覚です。しかも、手の震えは吸収されて先端がぶれないため、手元が狂うことはありません。細かな神経や血管を傷つけないで済むため、出血が少なく、悪い部分だけ正確に取り除くことができ、術後回復が早いのが特徴です（<http://home.hiroshima-u.ac.jp/urology/8-tokuchou.html#RALP>）。

広島大学病院では2010年3月に中四国地方で初めてこの手術ロボットを導入しました。2017年2月までに泌尿器科の行った手術件数は529件（前立腺がん475、腎細胞がん47、膀胱がん7）に達し、手術件数全国ランキングは国公立大学病院中4位になっています（2014年、2015年）。また、この豊富な実績と高い技術力が評価され、2013年にはロボット手術症例見学サイトに認定されました。これまでに多くの執刀医、手術スタッフが見学に訪れています。そして、2017年1月からは、この手術ロボットを2台に増設し、本格的に稼働させています。2台態勢となるのは中国四国地区では初めてのことで、2台態勢になることで手術の待機時間が減少すること、万一の機器の不具合時に早急に対応できること、さまざまな領域のロボット手術が同時に行えることなど多くのメリットが期待されています。今回、新たに導入された機種はダヴィンチXiです。このシステムではアーム構造が改良され、腹部や胸部へのアクセスの自由度、操作性が飛躍的に高まり、アームのスリム化によってアーム同士の干渉が激減しています。これによって、腎細胞がん手術では、これまで難しかった場所や大きいサイズのがんにも対応可能になります。また、泌尿器領域以外にも手術ロボットの恩恵を受けるがん手術の種類が増える予想されます。保険適応は、今のところ前立腺がんと腎細胞がんですが、今後は消化器外科、呼吸器外科、婦人科などの領域にも患者さんへの負担が少ないロボット手術を拡げていきたいと考えています。お問い合わせは、広島大学病院泌尿器科（082-257-5474 平日13:00～17:00）にどうぞ。



患者サロンのご案内

前回のサロン（2月16日）の内容

頭頸部がんの基礎と治療について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師：上田勉先生のお話でした。鼻や口、喉のがんについて予防から治療法までわかりやすく教えていただきました。参加者の方の感想をご紹介します。

お酒が好きなので適量を心掛けたいと思います。

具体的ながんの写真をを見せて頂いたのは参考になりました。

頭頸部がんについて、幅広い知識を学べました。

癌になりやすい原因が判りました（食品）

次回のサロン

平成29年4月20日（木）13:30～14:30

臨床管理棟 3階「3F2会議室」

「がん患者の在宅療養について」

秋本クリニック 院長 秋本 悦志



患者おしゃべり会のご案内

開催日 平成29年4月25日（火）13:30～14:30

（★5月は23日（火）の予定です）

対象者 がんと診断された方とそのご家族

場所 診療棟2階 健康情報プラザ（入口の写真です）

料金 無料（お気軽にご参加ください）



がん医療相談（がん相談支援センター）

（診療棟1階 がん治療センター・患者支援センター内）

連絡先 082-257-1525

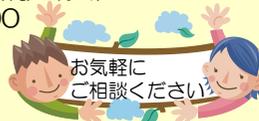
相談日 月～金曜日（外来休診日除く）

時間 9:00～17:00

相談方法 電話相談

来室による相談

料金 無料



がん医療相談（がん相談支援センター）案内図

